

無料の生理用品設置の要望

【ご意見・ご要望】(投稿日:2024年1月31日)

構内全てのトイレに無料で生理用品を設置することを求める。現在、少なくとも京都大学吉田キャンパスの女性用トイレには、無料の生理用品が設置されていない。この状況は、教育と研究を提供するという大学の本質的機能を妨げているため、早急に改善されるべきである。以下、トイレトペーパーと生理用品とを比較しつつ要望の詳細な根拠を具体的に述べる。

月経は排泄と同様に本人の意思で制御できない生理現象であり、平均して月に一度一週間ほど続くと言われ、月経期間中は一日に何度も出血が起きることがある。さらに体外に排出するタイミングに関しては、糞尿は肛門括約筋等の力である程度コントロール可能であるのに対し、経血はコントロールがほぼ不可能であるという点で、排泄よりも月経による出血の方が生活に支障を来す可能性が高い。月経開始のタイミングや月経期間の長さ、経血量も完全に予測することは不可能であり、周期や量が不安定な人も多いため、大学での活動中に出血によって教育活動や研究活動が中断・妨害される可能性が十分にある。このように月経による出血は排泄と同様に日常生活を送るうえで避けられない生理現象であり、排泄と同等あるいはそれ以上に大学での教育活動や研究活動の障害になりうるにも関わらず、トイレトペーパーが無料で設置されているのに対して生理用品が無料で設置されていない状況は、月経が起こる全構成員への配慮に欠けている。

大学構内全トイレでの無料の生理用品設置に対して予想される懸念や反対意見には、盗難(必要量以上の持ち去りや使用)の可能性、必要ならば持参あるいは常に携帯すればよい、といった例が挙げられるが、これらはトイレトペーパーにも共通するため、生理用品が設置されなくてよい理由にはならないだろう。また月経が起こる人は身体的女性であることから、「女性だけに生理用品を提供するのは性差別である」という批判も予想されるが、教育・研究活動を円滑に行うための生理用品設置は、例えば障害のある学生への合理的配慮と同質だと考えられるため、差別にはあたらないだろう。

以上を踏まえたとえで、トランスジェンダー男性など月経はあるが女性用以外のトイレを使う人へも配慮し、大学構内の全トイレへの生理用品設置を要求する。

【回答】(回答日:2024年2月26日)

(回答部署:ダイバーシティ推進室)

ご意見ありがとうございます。生理用品の設置に関しては、ご指摘のような必要性を理解しており、既にいくつかの対応策を検討しているところです。しかし、未だ解決すべき課題が多く、実現できていません。今回のご要望も踏まえて引き続き検討をさせていただきます。